

## 1 単元名 E 球技（ゴール型 ハンドボール）

## 2 単元の目標

(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。

ウ ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。

【知識及び技能】

(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や中間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

【思考力,判断力,表現力等】

(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする事、仲間の学習を援助しようとする事などや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

【学びに向かう力, 人間性等】

## 3 単元について

## (1) 教材観

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

第1学年及び第2学年では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的なボールや用具、バット操作と仲間と連携した動きで攻防を展開できるようにする。その際、攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにすることが大切である。また、球技の学習に積極的に取り組み、作戦などについての話合いに参加することや一人一人の違いに応じたプレイなどを認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配ることができるようにすることが大切である。

## (2) 生徒観

男子生徒18名、女子生徒15名の計33名のクラスである。男女間を含め生徒同士の仲は良好である。さらに、体育の授業に対して主体的に取り組む生徒が多く、準備や片付けも積極的に行なえる生徒が多い。ただ、女子の半数は運動部に所属しておらず、運動を苦手とする生徒もいるため、注意深く観察し励ましながら取り組ませたい。また、新体力テストのハンドボール投げの結果より、ハンドボールにおいて必要となる動きの一つである投動作が苦手である傾向がある。

表1 新体力テストハンドボール投げ2年2組の記録（令和6年5月実施）

|    | 未測定 | 6～10m | 11～15m | 16～20m | 21m以上 |
|----|-----|-------|--------|--------|-------|
| 男子 | 2人  | 0人    | 2人     | 6人     | 8人    |
| 女子 | 2人  | 7人    | 4人     | 2人     | 0人    |

### (3) 指導観

ハンドボールの授業を通し、練習やゲームにおいてボールに積極的に関わることで得られるボール操作の楽しさや、勝敗に関与する楽しさを深く学ばせたいと考えている。そのために、ボールを扱う時間を増やし、投動作を多く取り入れたい。さらに、投動作を多く取り入れることで、正しいフォームの気付きを与えたい。また、集団競技であるため、仲間と協力する姿勢や仲間のミスを責めない姿勢を身に付けさせることを重要視したい。

## 4 全ての「単元の評価規準」

| 知識・技能  |   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |
|--|---|--|--|
| <p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</li> <li>学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、言ったり書き出したりしている。</li> <li>球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、言ったり書き出したりしている。</li> <li>対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、言ったり書き出したりしている。</li> <li>球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、言ったり書き出したりしている。</li> </ul> | <p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</li> <li>マークされていない味方にパスを出すことができる。</li> <li>得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</li> <li>パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。</li> <li>ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</li> <li>パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。</li> <li>ボールを持っている相手をマークすることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</li> <li>提示された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。</li> <li>学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。</li> <li>練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。</li> <li>仲間と協力する場面で、分担した役割に応じて活動の仕方を見付けている。</li> <li>仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</li> <li>体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>球技の学習に積極的に取り組もうとしている。</li> <li>マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。</li> <li>作戦などの話合いに参加しようとしている。</li> <li>一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。</li> <li>練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</li> <li>健康・安全に留意している。</li> </ul> |

## 5 「具体的な単元の評価規準」

| 知識・技能   |  | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|--|---|---|
| <p>○知識</p> <p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、言ったり書き出したりしている。</p> | <p>○技能</p> <p>①マークされていない味方にパスを出すことができる。</p> <p>②パスでボールをキープすることができる。</p> <p>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p> | <p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>②仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p> | <p>①マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。</p> <p>②作戦などの話合いに参加しようとしている。</p> <p>③健康・安全に留意している。</p> |

6 具体的な指導内容と「単元の評価規準」

| 知識及び技能   |   | 思考力, 判断力, 表現力等   | 学びに向かう力, 人間性等  |
|--|---|--|--|
| 知識   | 技能  |  |  |
| <p>・ゴール型球技は,ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し,シュートを放ち,一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うことが楽しい運動であること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①球技には,集団対集団,個人対個人で攻防を展開し,勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて,言ったり書き出したりしている。</p> <p>・球技を継続することで,ゴール型では,主として巧緻性,敏捷性,スピード,全身持久力などが高められること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②球技は,それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて,言ったり書き出したりしている。</p> | <p>・マークされていない味方にパスを出すことで,パスが上手くつながったり,シュートが打ちやすくなったりすること</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①マークされていない味方にパスを出すことができる。</p> <p>・パスを出すときは名前を呼んだり,受けるときにはマークから離れたりなど,パスでボールをキープするためのポイントがあること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②パスでボールをキープすることができる。</p> <p>・ボール保持者とゴールが見える位置に移動し,ボールを受ける準備姿勢をとること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p> | <p>・成功例,つまずき例などの事例や,シュート,パス,キープのポイントを提示し,仲間の動きと比較し,伝えること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に,仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>・仲間の意見をしっかり聞く,自身の意見を述べるなどの話し合いへのマナーを提示し,参加の仕方を見つけること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②仲間と話し合う場面で,提示された参加の仕方に当てはめ,チームへの関わり方を見付けている。</p> | <p>・ルールやマナーを守ることで球技独自の楽しさや安全性,公平性が確保されること,また,相手や仲間のすばらしいプレイやフェアなプレイを認めることで互いを尊重する気持ちが強くなること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして,フェアなプレイを守ろうとしている。</p> <p>・作戦などについて意思決定をする際には,話し合いを通して仲間の意見を聞くだけでなく自分の意見も述べるなど,それぞれの考えを伝え合うことが大切で存。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②作戦などの話し合いに参加しようとしている。</p> |

7 指導と評価の計画

|         |                            |  |   |              |              |              |        |        |        |        |        |              |   |   |   |   |    |
|---------|----------------------------|--|---|--------------|--------------|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------|---|---|---|---|----|
| 単元の目標   | 知識及び技能                     | 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。<br>ウ ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。 |   |              |              |              |        |        |        |        |        |              |   |   |   |   |    |
|         | 思考力、判断力、表現力等               | 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や中間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。  |   |              |              |              |        |        |        |        |        |              |   |   |   |   |    |
|         | 学びに向かう力、人間性等               | 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。                                       |   |              |              |              |        |        |        |        |        |              |   |   |   |   |    |
|         | 時                          | 1  | 2   | 3            | 4            | 5            | 6      | 7      | 8      | 9      | 10     | 授業づくりのポイント   |   |   |   |   |    |
| 学習の流れ   | 0                          | オリエンテーション  | 健康観察・準備体操、本時の学習内容の確認                                |              |              |              |        |        |        |        |        |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スモールステップを意識し、段階を踏んだ授業を展開する。</li> <li>・ボールを投げる機会を多く取り入れる。</li> <li>・ボール回しやパスゲームで学んだ内容をハーフコートゲームという場で活かせるよう、生徒に声掛けを行う。</li> <li>・ハンドボールの授業を行う中で、投動作が向上するように授業を組み立てた。</li> </ul> |   |   |   |    |
|         | 10                         |  | 【投動作に繋がるドリル練習】(別紙参照)<br>9時間目のドリルにおいてICTによるキャッチボール撮影 |              |              |              |        |        |        |        |        |              |   |   |   |   |    |
|         | 20                         |  | パス通しゲーム   | 4対2のボール回し    | ボール無し突破ゲーム   |              | チーム対抗戦 | チーム対抗戦 | チーム対抗戦 | チーム対抗戦 | チーム対抗戦 | チーム対抗戦       |   |   |   |   |    |
|         | 30                         |  | 3対1のボール回し   | 4対3ハーフコートゲーム | ボールあり突破ゲーム   | グループごとメニュー選択 |        |        |        |        |        |              |   |   |   |   |    |
|         | 40                         |  | 3対2ハーフコートゲーム  |              | 3対3ハーフコートゲーム |              |        |        |        |        |        |              |   |   |   |   |    |
| 50      | 学習カード記入、健康観察、本時の振り返り、次時の確認 |  |   |              |              |              |        |        |        |        |        |              | 単元のまとめ<br>ハンドボール投げ  |   |   |   |    |
| 評価機会    |                            | 1  | 2   | 3            | 4            | 5            |        |        |        |        |        |              | 6   | 7 | 8 | 9 | 10 |
|         | 知識                         | ①  |   |              |              |              | ②      |        |        |        |        | 学習カード        |   |   |   |   |    |
|         | 技能                         |  |   | ①            |              | ②            |        |        |        |        | ③      | 学習カード・観察・ICT |   |   |   |   |    |
|         | 思・判・表                      |  | ①   |              | ②            |              |        | (①)    |        |        |        | 学習カード・観察     |   |   |   |   |    |
|         | 態度                         |  |   |              | ①            |              |        |        |        |        | ②      | 観察・学習カード     |   |   |   |   |    |
| 単元の評価規準 | 知識                         | ①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。<br>②球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、言ったり書き出したりしている。                              |   |              |              |              |        |        |        |        |        |              |   |   |   |   |    |
|         | 技能                         | ①マークされていない味方にパスを出すことができる。<br>②パスでボールをキープすることができる。<br>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。   |   |              |              |              |        |        |        |        |        |              |   |   |   |   |    |
|         | 思・判・表                      | ①提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。<br>②仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。   |   |              |              |              |        |        |        |        |        |              |   |   |   |   |    |
|         | 態度                         | ①マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。<br>②作戦などの話合いに参加しようとしている。   |   |              |              |              |        |        |        |        |        |              |   |   |   |   |    |

8 本時（5/10時間目）

(1) 日時・場所 令和6年10月1日(火)14:30・甲府市立東中学校 グラウンド

(2) 本時の目標（指導の重点）

- ・パスでボールをキープすることができるようにする。

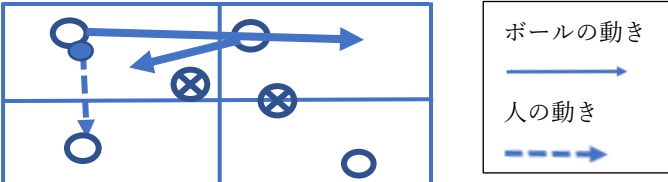
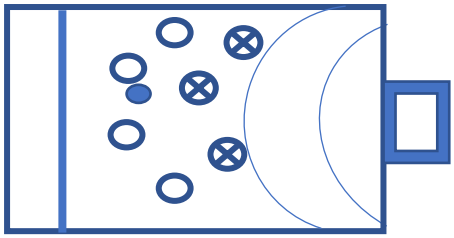
（知識及び技能）

(3) 本時の評価規準（評価の重点）

- ・パスでボールをキープすることができる。

（技能）

(4) 展開

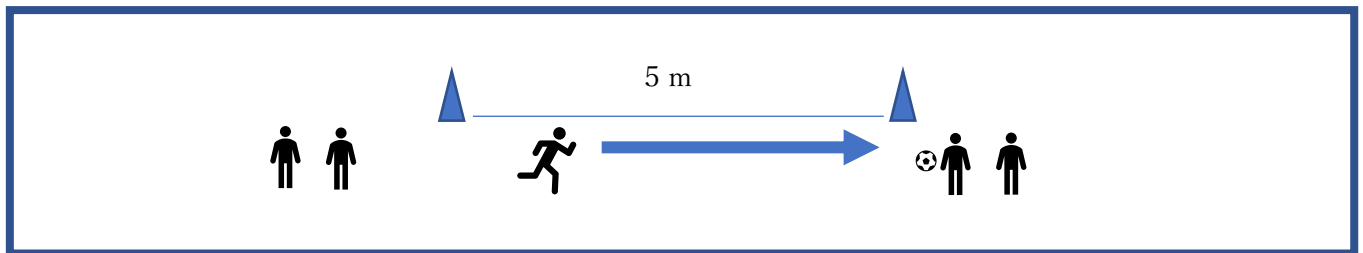
|           | 学習内容と学習活動   | 教師の指導・支援   |
|-----------|---|--|
| はじめ<br>5分 | <p>○整列，挨拶，出席及び健康状態の確認</p> <p>○本時のねらい・内容の確認</p> <p style="background-color: yellow; text-align: center;"><b>ねらい：パスでボールをキープしてゴールを目指そう！</b></p>  | <p>○落ち着いた雰囲気の中で挨拶ができるようにする。</p> <p>○本時のねらいを理解させ，見通しをもたせる。</p>  |
| なか<br>40分 | <p>○ドリル③(別紙参照)</p> <p>○4対2のボール回しを行う。(20分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>ルール</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアを組み，そのうち2組はパスを回す側，1組は鬼となる。</li> <li>・2組(4人)で4分割されたグリッドの中を自由に動きながらパス回しを1分間行う。(同じスペース内のパス交換は禁止)</li> <li>・鬼となった1組(2人)は，ボール保持者にタッチするか，ボールをカットする。</li> <li>・鬼の交代は時間で行う。</li> </ul> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ボールの動き<br/>——→</p> <p>人の動き<br/>- - -&gt;</p> </div> <p>○グループで良かったプレーや改善点について話し合う。</p> <p>○話し合いを踏まえてもう一周行う。</p> <p>○4対3のハーフコートゲームを行う。(15分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>ルール</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制限時間は各チーム3分。</li> <li>・ボールがコートから出る，守備に取られる，ゴールするなど，プレーが途切れた場合，攻撃はスタートラインから攻撃を再開する。</li> <li>・制限時間内に多くポイントを得たチームの勝利。</li> </ul> </div> <div style="text-align: center;">  </div> | <p>○鬼に対して，積極的にボール保持者に近づこう伝える。</p> <p>○すぐにパスを出すことができるボールの持ち方を考えさせる。(高い位置でボールを保持)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パスでボールをキープすることができる。(観察)</li> </ul> </div> <div style="border: 2px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>キープのポイント</b></p> <p><u>パサー</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名前を呼んでパスを出す。</li> <li>・味方の取りやすい位置(正面胸)にパスを出す。</li> </ul> <p><u>レシーバー</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェスチャーで呼び込む。</li> <li>・マーカーから離れる。</li> </ul> </div> <p>○グリッドの広い部分にいる味方を探し続けるよう指導する。</p> <p>○本時のねらいである，「パスでボールをキープしてゴールを目指そう！」を意識させる。</p> <p>○本時で扱った内容を思い出させ，すぐにパスを出せるボールの持ち方ができるように声掛けを行う。</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>努力を要する生徒への指導・助言</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肘を肩より高く上げてパスを出そう。</li> <li>・特に，親指と小指に力をいれてボールをつかもう。</li> </ul> </div> |
| まとめ<br>5分 | <p>○本時のねらいに対してどのようなことを意識したか，全体で共有する。</p> <p>○本時の反省を記入する。</p> <p>○本時のまとめをし，次時の内容を知る。</p>   | <p>○成果と課題を学習カードに記入できるようにする。</p> <p>○授業を振り返っての評価と次時の確認を行う。</p>  |

# 投動作につながるドリル練習

## ① 5 m 間隔での移動あり対面パストドリル(2・3 時間目)

- ・ 5 人組で両サイドに別れ、対面パスを行う。パスを出した後、反対サイドの最後尾に並ぶ。3 分間で何回パスをつなげるかをカウントする。

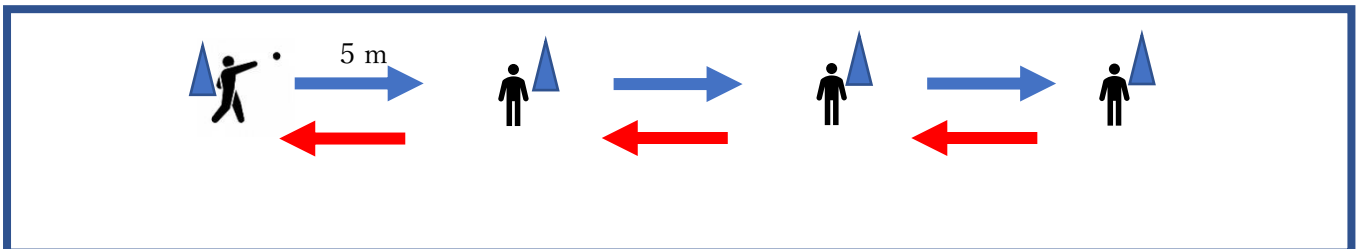
指導ポイント ・ 肘を高くして投げる ・ 親指と小指でボールをつかむ



## ② 4 人組横並びパストドリル(4・5 時間目)

- ・ 4 人組で 5 m 間隔の横並びになり、隣の人にパスを出す。端の人までつないだら反対方向へつないでいく。移動はしない。パスを出す際は一度正面を向いてから横向きに身体をひねって投げるようにする。

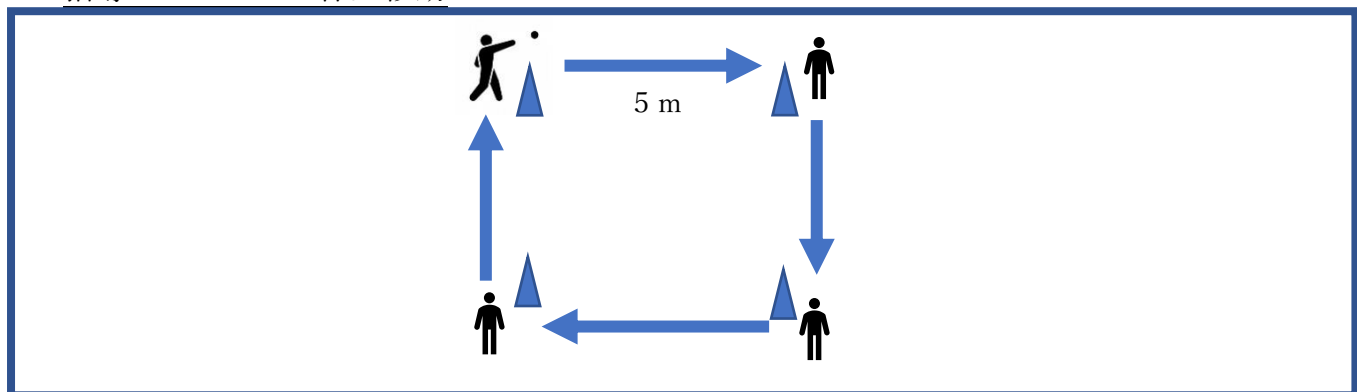
指導ポイント ・ 腰のひねり ・ へそを受け手に向ける



## ③ 4 人組スクエアパストドリル(6・7・8 時間目)

- ・ 4 人組になり、5 m の正方形でパス交換を行う。移動はしない。

指導ポイント ・ 体重移動



# 2年ハンドボール 学習カード

( )組( )番( )

|        |   |   |   |   |    |
|--------|---|---|---|---|----|
| 日付     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5  |
| ドリル番号  |   |   |   |   |    |
| 数値(単位) |   |   |   |   |    |
| 日付     | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| ドリル番号  |   |   |   |   |    |
| 数値(単位) |   |   |   |   |    |

|    |     |  |
|----|-----|--|
| ①  | めあて |  |
| 成果 | 課題  |  |
| ②  | めあて |  |
| 成果 | 課題  |  |
| ③  | めあて |  |
| 成果 | 課題  |  |
| ④  | めあて |  |
| 成果 | 課題  |  |

|        |     |    |
|--------|-----|----|
| ⑤      | めあて |    |
| 成果     |     | 課題 |
| ⑥      | めあて |    |
| 成果     |     | 課題 |
| ⑦      | めあて |    |
| 成果     |     | 課題 |
| ⑧      | めあて |    |
| 成果     |     | 課題 |
| ⑨      | めあて |    |
| 成果     |     | 課題 |
| ⑩      | めあて |    |
| 成果     |     | 課題 |
| 単元を終えて |     |    |